

A

## 校種間で確実に引き継ごう

子どもたち一人ひとりが「自分の生き方を考えていくアイテム」という活用の目的を、校種を超えて確認・共有し、一人ひとりの自己実現を支援します。

小学校では、憧れの連鎖が生まれるよう、「ふるさと山口」のいいところを見付ける活動を継続的に行ってきました。



小学校教員

中学校教員

では中学校では、「ふるさと山口」と自己の在り方生き方について、小学校の活動を基に考えることから始めますね。

P

## 対話的に活用できるように計画しよう

キャリア教育の要である学級活動の役割を明確にすることで、子どもたちが、教師との対話や子ども同士の対話を通して自己理解を深めたり、将来の生き方を考えたりする活動を行います。

## 「ふるさと山口の創り手」の育成

自己の在り方生き方を考える児童生徒の育成

## 「やまぐちPRIDE」の醸成

—ふるさと山口の未来を創る心意気—

C

## 学校や地域の実態に合わせた活用を考えよう

学校・地域連携カリキュラム等を基に具体的な活用方法を見直すことで、地域の方の思いや願いにふれる取組の際の振り返りでの活用や、中学校区で育成をめざす子どもたちの姿をイメージして工夫・改善を行います。

D

## 振り返りを蓄積しよう

授業や体験活動、行事等の振り返りを計画的に蓄積していくことで、子どもたちが、学ぶことと自己の将来や地域とのつながりに気付くための材料を集めます。

体験活動を通して、地域の方の「ふるさと山口」に対する思いや願いを知ることができたよ。

学んだことから、わたしはこれからどんな生き方をしたいのかを考えてみよう。

